開実用 昭和50→5416





(1,500円) 35 15

実用新案登録願(20)

昭和 48年 9月10日

特許庁長官殿

1考案の名称

2 考 者 案

大阪府門真市天学門真1006番地 住 所 下電器產業株式会社內

迅 名

実用新案登録出願人

大阪府門真市大字門真1006番地 住

(582) 松下電器產業株式会社 10 称 治

松 下 Œ 化技者

4 代 理 **〒** 571 人

> 大阪府門真市大字門真1006番地 住 肵

> > 松下電器産業株式会社内。

(5971) 弁理士 中尾 敏 男 IÇ. 名

(連絡先 電話CMOIO453-3111 特許部分室)

5 添付書類の目録

通 (1) 叨 細 1

通 (2) |X| illi

通 任 状 (3) 否

通 (4)願書副本

48-106285

. 1、海楽の名称

リニアーモーク鉄心

. 2、実用新架登録請求の範囲

鉄心歯と継鉄とを分割し、前紀鉄心歯に実態を 設け、この突起幅を鉄心歯の脚幅と両等かそれ以 下の寸法とし、別途製作したコイルを前記鉄心歯 に押入し、かつ前記鉄心歯を施鉄に圧入間滑して なるリニアーモータ鉄心。

3、 海探の詳細な説明

本考案はリニアーモータの鉄心構造に調する。 第1間は従来の単相リニアーモータの平面断面器 を示す。主鉄心1と補鉄心まとは90°位相をずら し対向して配置し、その間隙を2次導体をが移動 する。鉄心1,3にはそれぞれ各曲に告練が施 されており主着線2と補巻線4とはコンデンサ等 により個気的に90°位相をすらしている。

とのように構成したリニアーモータでは各鉄心 歯に施こされる機能は第2回に示すように別途に 電線をリング状に形成し、それを各スリット関Φ

倉.

よりスロット内でに押入している。

そのため場様に要する作業時間が長く、そのう えスリット通過時に電線に傷がつまやすく絶象不 良の原因となり、またスロット内の電線の整残が 悪くスロット内の電線の占狭率を高くすることが できないなどの欠点があった。

本考案は上記従来の欠点を解消するものであり、本考案の一実施例を集る限、第4個に示す。

本者集のリニアーモータ鉄心を使用することに より、別途製作したコイルを鉄心歯に押入すると とができるので、従来のように増離をスリットよ リスロット内に押入する必要がなく場様作業に要する作業時間を大巾に握縮するととができると共による他様不良をなくすととができ、またコイルを鉄心歯に審着させるととができ、なかかつ電線が整列良く増業されているためスロット内の占後率を大巾に曳上することができると共に、電線使用量を減少するととができる。

なか鉄心曲のの突起形状は楕円でなく長方形」 くさび形などでも同等の効果を得ることができる。

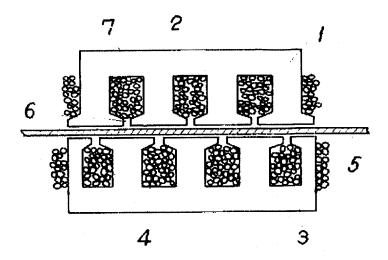
4、 闘 面 の 簡 単 本 説 明

第1回は従来のリュアーモータの平面断面図、 第2回は従来のリュアーモータに使用する参謀の 新複盟、第2回は本者家の一実施例におけるリニ アーモータ鉄心の分解斜視器、第4回は上記リニ アーモータ鉄心に使用するコイルの断面斜視図、 第4回は上記リニアーモータ鉄心を用いたリエア ーモータの平面断面図である。

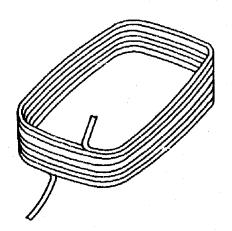
8 … … 鉄心信、 9 … … 継鉄、 1 O … … 奥超、 1 4 … … コイル。

● 公開実用 昭和 52416

第 1 図



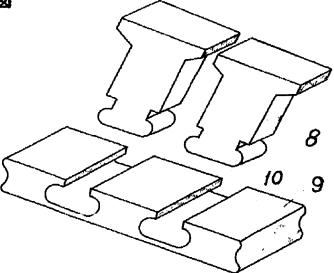
第 2 数

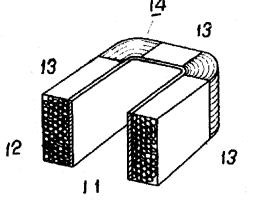


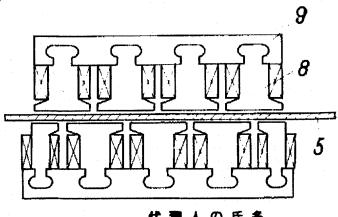
作響人の氏名

#理士 中 **尾 敏** 男

52418/2







代理人の氏名

524162/2

ほか1名

● 公開実用 昭和 52416

6 前記以外の代理人

住 所 大阪府門真市大字門真1006番地

松下電器產業株式会社內

氏 名 (6152) 弁理士 栗 野 重 孝

35

⑩日本国特許庁

① I'nt·Cl².

H 02 K 41/02

H 02 K 1/06

即日本分類55 A 42355 A 02

公開実用新案公報

庁内整理番号 2106-51 7319-51 ⑩実開昭50-52416

❸公開 昭50(1975). 5.20

審查請求 未請求

鰯リニアーモータ鉄心

@実

顧 昭48-106285

墾出

願 昭48(1973)9月10日

70考 案 者

者 辻原敏生

門真市大字門真1006松下電器

印出 顧 人 松下電器産業株式会社

産業株式会社内

門真市大字門真1006

50.4P 78 A

人 弁理士 中尾敏男 外1名

の実用新案登録請求の範囲

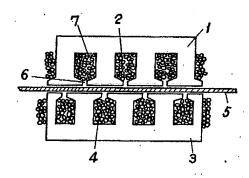
鉄心歯と継鉄とを分割し、前記鉄心歯に突起を 設け、この突起幅を鉄心歯の脚幅と同等かそれ以 下の寸法とし、別途製作したコイルを前記鉄心歯 に挿入し、かつ前記鉄心歯を継鉄に圧入固着して なるリニアーモータ鉄心。

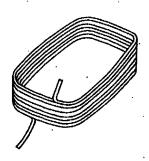
図面の簡単な説明

第1図は従来のリニアーモータの平面断面図、第2図は従来のリニアーモータに使用する巻線の 斜視図、第3図は本考案の一実施例におけるリニ アーモータ鉄心の分割斜視図、第4図は上記リニ アーモータ鉄心に使用するコイルの断面斜視図、 第5図は上記リニアーモータ鉄心を用いたリニア ーモータの平面断面図である。

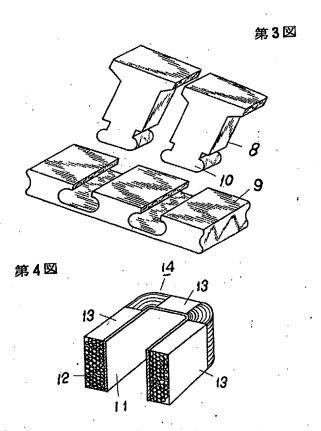
8……鉄心歯、9……継鉄、10……突起、 14……コイル。

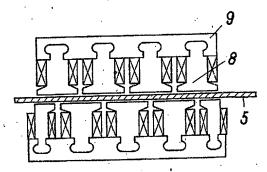
第1図





第2図





第5図

公開実用 昭和50-52416





(1,500円) 35 15

実用新案登録願(20)

昭和 48年 9月10日

特許庁長官殿

1 考案の名称

リュアーモータ鉄心

2 考 案 者

住 所 大阪府門或市天空門或1006番地松下電器產業株式会社內

氏 名

3 実用新案登録出願人

名 称 (582)松下電器產業株式会社代表者 松 下 正 治

4 代 理 人 〒 571

硅 所 大阪府門真市大字門真1006番地

松下電器産業株式会社内。

氏 名 (5971) 弁理士 中 尾 飯 男 (ほか 1名)

〔連絡先 電話(項票)453-3111 特許部分室〕

5 添付書類の目録

(1) 明 細 唐 (2) 図 面

(3) 委任 状 、 3 通

(4) 願書副本 1 通

48-106285

通通

1

1

#

書

. 1、考案の名称

リュアーモーク鉄心

・2、実用新集登集請求の範囲

鉄心曲と継鉄とを分割し、前紀鉄心曲に突起を 設け、この突起幅を鉄心曲の脚幅と同等かそれ以 下の寸法とし、別途製作したコイルを前記鉄心曲 に押入し、かつ前記鉄心曲を継鉄に圧入回着して なるリニアーモータ鉄心。

3、考案の詳細な説明

本考案はリニアーモータの鉄心構造に関する。 第1回は従来の単相リュアーモータの平面断面図を示す。主鉄心1と補鉄心さとは900位相をずらし対向して配置し、その間隙を2次導体をが移動する。鉄心1,3にはそれぞれ各歯に告離が落とされてかり主巻線2と補巻線4とはコンデンサ等により電気的に900位相をすらしている。

とのように構成したリニアーモータでは各鉄心 歯に施とされる巻線は第2回に示すように別途に 電線をリング状に形成し、それを各スリット間の

S. C.

公開実用 昭和50 - 52416

2. .

よりスロット内でに押入している。

そのため構態に要する作業時間が長く、そのう たスリット通過時に電離に傷がつまやすく絶機不 良の原因となり、またスロット内の電影の整列が 感くスロット内の電源の占後率を高くするととが できないなどの欠点があった。

本考案は上配従来の欠点を解消するものであり、本考案の一実施例を第3回、第4回に示す。

本汚線のリニアーモータ鉄心を使用することにより、別漁製作したコイルを鉄心歯に押入すると とができるので、従来のように増離をスリットよ

3

りスロット内に押入する必要がなく巻線作業に要する作業時間を大巾に短離するととができると共に、巻線押入作業時に超る電線傷による絶縁不良をなくすととができ、またコイルを鉄心歯に寄着させるととができ、なかかつ電線が整列良く巻線されているためスロット内の占積率を大巾に向上するととができると共に、電線使用量を減少するととができる。

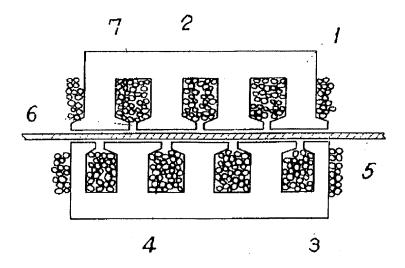
なか鉄心歯8の突縮形状は楕円でなく長方形。 くさび形などでも同等の効果を得ることができる。 4、麹面の簡単な説明

第1図は従来のリュアーモータの平面断面図、 第2図は従来のリュアーモータに使用する着種の 斜視圏、第2図は本考案の一実施例にかけるリニ アーモータ鉄心の分解斜視圏、第4図は上記リニ アーモータ鉄心に使用するコイルの断面針視圏、 第5図は上記リニアーモータ鉄心を用いたリエア ーモータの平面断面図である。

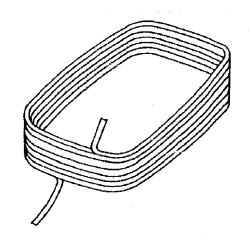
8 ····· 鉄心歯、 9 ····· 難鉄、 1 O ····· 突起、 1 4 ····· コイル。

公開実用 昭和50-52416

第 1 図



第 2 数



代理人の氏名

52418//2

^{弁理士} 中 **尾 敏 男** ほか1名

公開実用 昭和50 √52416

6 前記以外の代理人

住 所 大阪府門真市大字門真1006番地

松下電器産業株式会社内

氏 名 (6152) 弁理士 栗 野 重 孝